

吉賀町 下水道事業経営戦略【概要版】

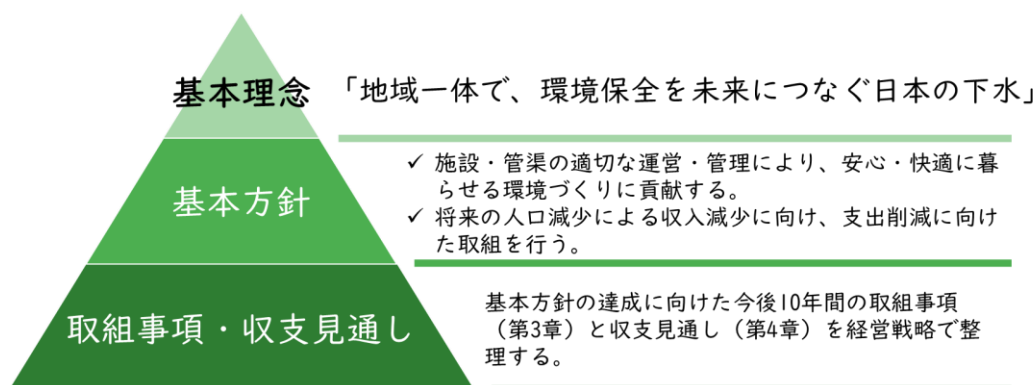
令和5年4月

第1章 はじめに

全国的に少子高齢化社会が進んでいる中、本町においても同様の状況で、下水道収益の減少や下水道への接続の低迷が見られる一方、下水道施設や設備の老朽化、常態化する自然災害への対応という様々な課題に直面しています。

このため、中長期的な経営の基本計画である「吉賀町下水道事業経営戦略」を更新・策定しました。

基本理念・基本方針



計画期間

令和5年度（2023年度）から令和14年度（2032年度）の10年

第2章 下水道事業の現状と課題

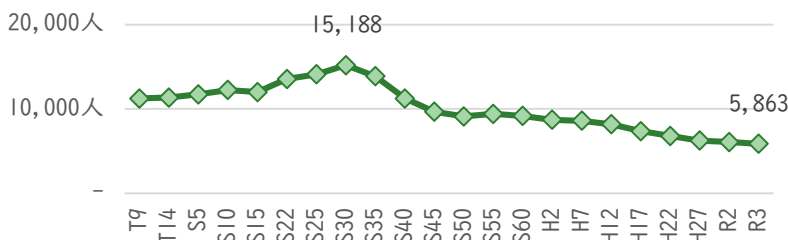
下水道事業の概要

本町の下水道事業は、特定環境保全公共下水道事業と農業集落排水事業の2つがあり、いずれも供用開始から20年程度です。令和3年度末時点での処理区域内人口は3,012人で、下水道普及率は51.4%です。

吉賀町の人口の推移

本町の総人口は昭和30年に15,188人とピークを迎え、その後徐々に減少し、令和3年度では5,863人と、ピーク時よりも61%減少しています。都会への流動による社会減が拡大し、更に少子高齢化による自然減が続いています。

【総人口の推移】

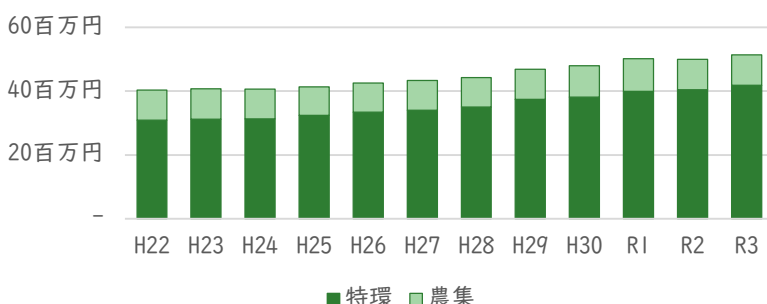


使用料収入の推移

使用料収入は、処理区域の拡大、水洗化率の増加、消費税率の上昇に比例して、微増傾向にあります。

現時点では、総人口の減少の影響をあまり受けていませんが、将来は人口減少に応じて使用料収入も減少する見込みです。

【使用料収入（税込）の推移】



料金の状況

吉賀町の下水道使用料体系は、一般家庭と業務用で区分しています。なお、消費税の増税による改定以外では使用料の改定は供用開始以来、行っていません。

■ 一般家庭：人頭制（税抜）

区分	基本料金	加算料金	
		4人まで 1人当たり	5人以上
定住	1,500円	500円	2,500円
非定住	500円	—	—

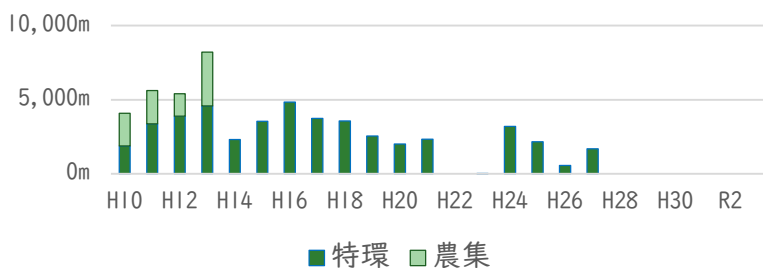
■ 公共施設・事業所等：従量制（税抜）

区分	基本料金	従量料金 1㎡当たり
公共施設	500円	120円
その他	800円	120円

管渠の状況

令和3年度末時点での吉賀町内の管渠延長は55.9kmあり、平成10年度～平成21年度までに敷設した管渠が多くなっています。管渠の耐用年数は50年のため、令和30年度以降に大規模な管渠の更新投資が必要になる見込みです。

【管渠の年度別布設状況】



経営の状況

供用開始年度、規模、地域的・地形的特徴から類似性の高い団体を選定し、令和2年度の経営状況を分析しました。

【分析結果】

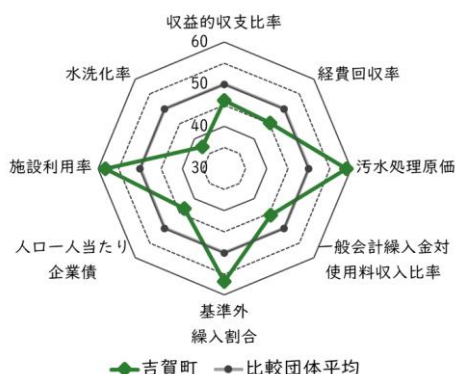
特環は污水处理原価から、経営効率が高いことが読み取れます。一方で、収益性の悪さと、企業債依存度の高さが課題です。また、施設効率は良いですが、水洗化率の低さが課題です。

農集は、污水处理原価は同水準なので、経営効率は適当ですが、特環同様、収益性の悪さと企業債依存度の高さが課題です。施設に関しては、比較団体平均とほぼ同水準です。

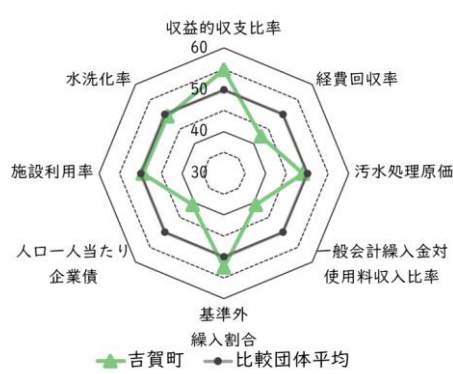
	経営指標	指標の 方向	特環		農集	
			比較団体平均	吉賀町	比較団体平均	吉賀町
財政 状況	収益的収支比率	↑	85.8%	79.0%	95.3%	99.7%
	経費回収率	↑	80.2%	71.5%	63.4%	40.3%
	污水处理原価	↓	269円	186円	403円	425円
	一般会計繰入金対使用料収入比率	↓	243.9%	283.4%	372.1%	547.3%
	基準外繰入割合	↓	18.1%	4.3%	24.9%	19.0%
	人口一人当たり企業債	↓	504千円	685千円	419千円	641千円
投資 状況	施設利用率	↑	43.9%	52.0%	44.0%	42.9%
	水洗化率	↑	84.1%	74.2%	89.7%	89.2%

※吉賀町数値が比較団体平均よりも数値が良いものは青色、数値が悪いものは赤色としています。

【特定環境保全公共下水道事業】



【農業集落排水事業】



※グラフは比較団体平均を50とした場合の標準偏差方式であり、外側に行くほど良好な数値を示しています。

第3章 下水道事業の効率化・健全化への取組

基本理念と基本方針を達成するために実施する主な取組事項は以下のとおりです。



投資に関する取組

- 管渠・施設・設備の最適化に関する事項
 - ✓ 経営戦略や各種計画に基づく、計画的な設備更新
 - ✓ スペックダウン・ダウンサイジングを加味した更新投資
- 投資の平準化に関する事項
 - ✓ 長寿命化を図りながら、投資の平準化を実施
- 民間活力の活用に関する事項
 - ✓ 委託業務の一体化や包括化を図るなど、より合理的な発注形態を検討
 - ✓ DBO、PFIなどの新たな方式による官民連携についての研究
- 広域化・共同化に関する事項
 - ✓ 近隣市町村との管理の一体化や共同発注などの広域化・共同化に向けた調査・研究



財源に関する取組

- 使用料に関する事項
 - ✓ 従量制への変更を含め、使用料体系・水準のあり方について検討
- 企業債に関する事項
 - ✓ 投資の平準化や合理化を図りながら、必要最小限の借入を実施
- 現有資産の有効活用に関する事項
 - ✓ 環境保全のため、工事請負業者に対して建設副産物の再利用を指導し、再資源化率100%を目指す



その他の重要な取組

- 組織・人材に関する事項
 - ✓ 職員間での研修を開催し、知識・技術の承継に努める
- 住民サービスの確保及び住民満足度の向上に関する事項
 - ✓ 支払方法の変更届等の電子申し込み化の検討
 - ✓ 住民の皆様から、直接のご意見を聞くためにアンケートを実施
- 防災・安全対策に関する事項
 - ✓ 非常時消防訓練を実施することを検討

第4章 投資・財政計画

水需要の予測

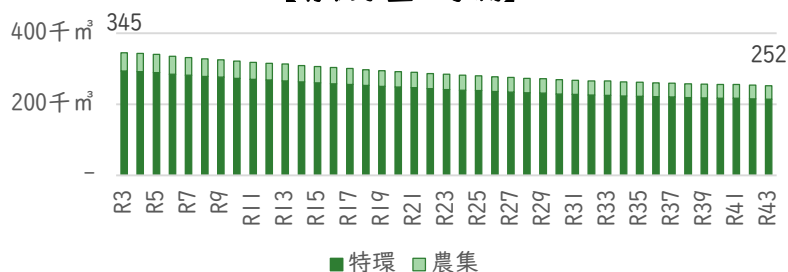
「第2期吉賀町総合戦略」（令和4年3月）の人口推移より、総人口は、現状の5,863人から40年後の令和42年度には4,400人程度になる予測です。

人口減少に応じて水需要は減少するため、有収水量は今後40年間で、およそ27%減少することが予測されました。

投資の予測

供用開始から20年程度のため、令和30年ごろまでは大きな更新投資は不要です。ただし、中継ポンプや機械設備などの耐用年数が短い固定資産については、修繕をしながら、必要に応じて更新投資を行っていく予定です。

【有収水量の予測】



【更新投資の予測】



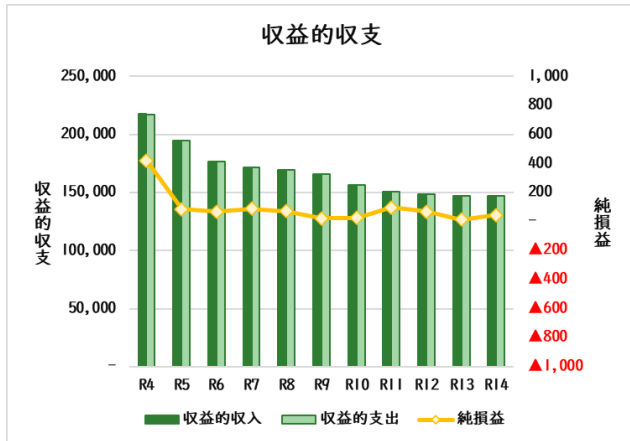
投資・財政計画

特環、農集ともに、令和5年度以降は黒字が続き、資金残高も確保できる見込みですが、一般会計からの繰入金を増加させることで黒字化させている状態にあり、不健全な状況です。課題である企業債は発行を抑制するため減少する見込みです。

このため、これまで以上の経費削減や、使用料改定などについても検討する必要があると考えられます。

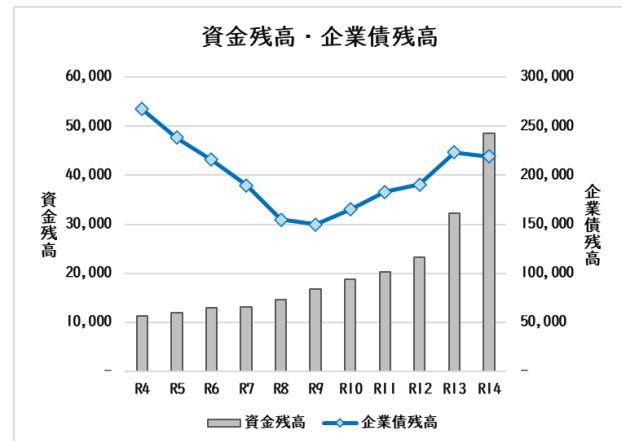
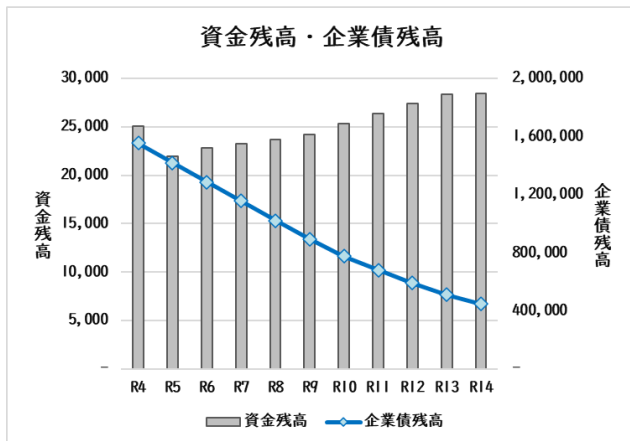
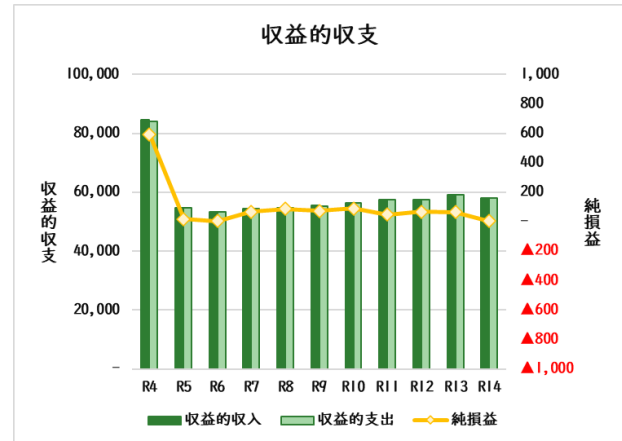
【特定環境保全公共下水道事業】

(単位：千円)



【農業集落排水事業】

(単位：千円)



第5章 経営戦略の事後検証・更新等

経営戦略目標

特に重要と考えられる指標について経営目標を設定しました。

当該目標は、下水道事業全体での目標値です。

	経営指標	指標の方向	事業	現状 (R2)	目標 (R9)	目標 (R14)
財政状況	経費回収率	↑	全体	62.3%	67.3%	65.7%
	一般会計繰入金対使用料収入比率	↓	全体	333.8%	475.1%	324.5%
	人ロー人当たり企業債	↓	全体	677千円	369千円	247千円
投資状況	水洗化率	↑	全体	76.8%	82.0%	86.0%

計画の進捗管理

経営戦略の推進のため、毎年度目標指標の達成状況を把握することで進捗管理を行います。

また、5年に一度、経営戦略における投資・財政計画と実績との乖離及びその原因を分析し、その結果を経営戦略等に反映させるPDCAサイクルを導入し、目標の達成状況や見直した経営戦略を住民の皆様へ公表します。

